

走行チェックシート

日付	2011年7月31日 (日)		時間	~	イベント	2011"コカコーラゼロ"鈴鹿8時間耐久ロードレース第34回大会		
天気	晴れ		マシン	GSX-R1000 L1	ライダー	今野由寛&手島雄介		
コース	名称	鈴鹿サーキット			気温	29	°C	
	コンディション	DRY			気圧	1001	hpa	
	路面温度	45	(計測時間)		湿度	50	%	
エンジン	スパークプラグ	NGK R0045Q-10		エンジンOIL	シェルアドバンス RMG-001 #40			
	ファイナルレシオ	16 x 42(2.625)						
トランスミッション	1st	B(35/16)	2.19	4th	B(31/21)	1.48		
	2nd	B(34/18)	1.89	5th	B(21/28)	1.33		
	3rd	B(36/22)	1.64	6th	C(32/25)	1.28		
フロント	パーツ名	SHOWA(760mm)		TEN	-10			
	スプリング	9.75	N/m	OIL	SR6 #5			
	自由長	-	mm	油面	190	mm		
	イニシャル	11	mm	残ストローク	mm			
	COMP	-7			突き出し	STDトップブリッジで5mm突き出し mm		
リア	パーツ名	SHOWA(321.5mm)		TEN	-12			
	スプリング	100.0	N/m	残ストローク	mm			
	自由長	-	mm	リンク	-			
	イニシャル	9	mm	リンクロッド	-	mm		
	COMP(HI)	MIN +1 3/4			車高	STD+16mm ピボット0mm スイング長599mm mm		
	COMP(LO)	-9						
タイヤ	フロント			リア				
	銘柄	ダンロップ		銘柄	ダンロップ			
	サイズ	125/80/16.5		サイズ	210/70R420			
	エア圧	2.1		エア圧	1.5			
チェック	順位	リタイヤ		ベストラップ	2' 12.075			
	水温	°C		油温	°C			
	ガソリン	IN	-	ℓ	走行距離	km		
		OUT	-	ℓ	燃費	km/ℓ		

<コメント>
 やってまいりました！真夏の祭典！！鈴鹿8時間耐久ロードレース！！
 昨年の気温や路面温度から考えると今年も相当厳しいレースになることが予想されます。
 ライダー、スタッフ共に体調管理をしっかりとて臨まなければ乗り切れない長丁場のレースです。
 今年は全日本でレースをしているときから路面とタイヤのコンディションのマッチングが良くなく昨年のタイムに及ばないのが現状です。
 しかし何とかしなければならぬので、探りながらセッティングしていきました。
 事前テストで大きく車体を振り、その発展版の仕様をレースウィークに持ってきました。
 その仕様では詰めきるまでに時間が掛かることと、ライダーもイメージを変えて走らなければならないため、8耐を戦うことを考えた上で前回の仕様を選択しました。
 予選が始まり今野選手が2' 12.487。手島選手が2' 12.325で1回目の予選を終えました。
 2回目の予選で新品タイヤを使えるのは1人のみです。1回目の予選タイムが速かった手島選手が2回目の予選で新品タイヤを投入しました。
 セクター4で他車に引っ掛かってしまいましたが、2' 12.075で14番手グリッドを獲得。
 予報では決勝日に雨が降るといことで、準備をしていたのですが雨は降らずにレーススタート。
 路面温度も上がっていき決勝中は50°Cを越えてしまいました。
 そうなるとグリップ感も無くなり、ズルズルとしたタイヤをコントロールするだけで大変です。
 7時間目のピットインのサインを出す周回で逆バンクでマシンがストップ。
 ふらふらになりながらも手島選手が押して帰ってきて、症状を聞きすぐに確認しましたがエンジントラブルのためにリタイヤとなりました。
 応援していただいた皆様に結果を残すことが出来ずに申し訳ありません。
 リベンジは来年まで待たなくていいかもしれませんがしっかりと体制を整えて臨みたいと思います。
 応援有難うございました。

レーシングサブライ
 畑中 健太郎